

一言ご挨拶を申し上げます。

本日「石見サミット」がこのように盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

また、今回のサミット開催にご尽力いただきました、島根経済同友会石見国再生委員会の宮田さん、及び山陰中央新報社に心より感謝申し上げます。

さて、今年は古事記が編纂されてから1300年目の節目の年であり、これを記念して、現在、県内各地で神話の博覧会「神話博しまね」を開催しております。

出雲大社周辺の主会場では、「しまね魅力発信ステージ」と銘打って、毎日、県内外の伝統芸能などを上演しています。中でも神楽の人気は非常に高く、毎回、ほぼ満席となっています。

また、先月はここ浜田市で「全国子どもサミットin島根」が開催され、神楽を通じて全国の子どもたちが交流を深めました。

石見地域では、こうした神楽の持つ魅力を共通の観光資源として、石見全域で情報発信をしたり、地域リレーにより「石見の夜神楽」を毎日公演するなど、広域的・一体的な取り組みがなされています。

他方で、石見には、例えば浜田市の「どんちっち三魚」、美郷町の「おおち山くじら」、益田市の「津茂のゆず」や「あゆ」など、各地域それぞれにさまざまな特産品があります。

しかし、こうした特産品については、これまで石見として統一的な取り組みはなされていませんでした。

今後、石見の特産品の魅力を県外に積極的に情報発信し、販路を開拓していく上で、観光の取り組みのように、市や町の枠を超えて連携していくことは、一つの有効な方法だと考えております。

この「石見サミット」は、石見地域の市長さん、町長さんが一堂に会され、特産品の振興をひとつのテーマとした情報交換や相互協力をオール石見で考え、盛り上げていこうというものです。

本日のサミットを契機として、石見9市町が一体となって取り組もうという気運が高まり、今後、具体的な取り組みに繋がっていけば、石見地域全体の振興にも大いに貢献するものと期待しています。

県には、石見地域の振興、ブランド化の推進、農林水産業の振興について各担当部局があり、また西部県民センターには地域振興担当を置いています。県としても、こうした担当部局が連携して、今回の取り組みをしっかりと支援していきたいと考えています。

この後、基調提言をされる久保田先生からは、石見のブランド戦略の推進による地域の活性化について、示唆に富んだお話を伺えるものと思います。

本日のサミットが、有意義で実り多いものとなるよう祈念しまして、ご挨拶といたします。